

プラタナス

那須赤十字病院 広報誌

No.08

平成27年1月発行

Japanese Red Cross Nasu Hospital

 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

那須赤十字病院



院長挨拶

新年のご挨拶

登録医紹介

西那須野内科循環器科クリニック

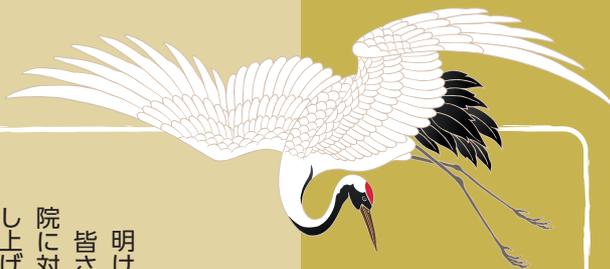
特集

がん診療に対する取り組み

マイタウン・マイホスピタル ミニニュース

いけばなボランティア紹介

新任医師紹介



新年のご挨拶

那須赤十字病院 院長 北島 敏光



北島敏光院長

明けましておめでとございます。
皆さまにおかれましては、常日頃から当院に対して心温まるご支援を戴き、深謝申し上げます。

新年に当たり、普段ではご紹介できない日本赤十字社並びに国際赤十字について述べてみたいと思います。当院の母体である日本赤十字社の創立は、一八七七年に官軍と薩摩軍との間で勃発した西南戦争において、元老院議官の佐野常民(そのつねたみ)と大給恒(おぎゅうゆずる)らは両軍の負傷者を敵味方の区別なく救護する団体として博愛社を設立し、有栖川宮熾仁(ありすがわのみやたるひと)親王によって活動を許可

されたのが始まりです。これによって、敵味方の分け隔てなく負傷者を助けるというヨーロッパの赤十字と同様の救護団体がわが国に設立されました。その後、一八八六年に日本政府がジュネーブ条約に加入したことから、博愛社は翌年に日本赤十字社と改称され、佐野常民は初代社長に就任しました。一方、ヨーロッパの赤十字は一八五九年にスイスの実業家アンリー・デュナンがフランス・サルディニア連合軍とオーストリア軍との間で生じたイタリア統一戦争において、「傷ついた兵士はもはや兵士ではない、人間である。人間同士としてその尊い生命は救われなければならない」という信念のもとに負傷者を救護したのが始まりです。そして、一八六四年に救護組織の活動を保護するための国際条約が、スイスなど十六か国によって締結されてジュネーブ条約として採択されました。これによって国際赤十字が誕生しました。その後、デュナンは人道的活動が高く評価されて一九〇一年に

第一回ノーベル平和賞を受賞しました。

国際赤十字は、一九九一年に名称を国際赤十字・赤新月社連盟と改めました。そして、近衛忠輝(このえただてる)日本赤十字社社長が二〇〇九年にアジア人では初の連盟会長に選出され、現在もご活躍中です。なお、世界における赤十字社等の数は一八九社となっており、国際活動、救護活動、医療事業などに従事しています。

新しい年を迎え、赤十字の歴史と創立の意義について紹介致しました。当院は本年も赤十字精神に則り、地域医療、災害救助などに努めてまいりますのでよろしくお願ひ申し上げます。結びとして、本年が皆さまにとって素晴らしい一年となることを祈念してご挨拶とさせていただきます。



西那須野内科循環器科クリニック

診療所の先生方はみなさんの健康を支えてくれる
心強いパートナー。こちらのコーナーでは日々当院と
連携いただいている登録医の先生を紹介していきます。
今回は「西那須野内科循環器科クリニック」を紹介します。



鈴木院長

鈴木明裕院長先生にインタビュー

当院との医療連携について期待されていることはどのようなことですか？

地域医療は、開業医の一般診療と高次医療を担う中核病院とが上手く連携機能して行政も加わり完成すると思います。那須赤十字病院は県北地域でその中核を担う病院であり病診連携を特に密にして医療を円滑に進めなくてはいけないと考えております。

この高次救急医療はもちろんですが、開業医にとりましては一般診療におきましても入院の適応となる患者の診療依頼や、また、那須赤十字病院はCT、MRなどは病診連携を通じて放射線科に直接依頼が出来、加えて、「とちまるネット」を利用してすぐに結果を報告して頂くなど円滑に運営されていると思います。

また、医師会と行政が参加しての「地域医療支援連絡会」が定期的に開催されており、西那須野塩原地区医師会長として出席させて頂いておりますが、地域医療の面からの要望等提案させて頂いております。一層素晴らしい地域連携医療を構築して益々円滑に機能します事を期待しております。

毎日忙しいと思いますが、休日はどう過ごされていますか？

最近は巡礼の旅という程ではないのですが時間をみては家内と各地を回っております。「那須33観音」から始めたのですが、少しずつお参りを致しまして、関東の「坂東33観音」、秩父地方の「秩父34観音」は結願(終了)を致しました。普段の名所旧跡の旅行では味わえないその地方の風土に接することができ、また、ドライブとカメラも好きですのであわせて楽しんでおります。関西地方の西国33観音で百観音が完成致しますが、加えてお遍路さんも結願できるのは引退してからでしょうか。

他にはオーディオ、最近はコレクションのみですがギター、絵画陶磁器の鑑賞収集、特に、九谷焼きが好きです。年齢のせいでしょうか自然に接する事が好きになりまして、家内と山歩きも始め、無理をしないように楽しんでおります。

最後に地域の方々、患者さんへ一言をお願いします。

栃木県は脳卒中死亡率が悪い状況が続いております。しかし、意外かもしれませんが那須塩原市では脳卒中の死亡率は栃木県下でも非常に少ない優秀なところに位置しております。今後は年齢構成の老年化もあり現在の状況を維持するのは難しくなってくるものと思われれます。

それを補うためにも、健(検)診の重要性が増してくるものと考えます。日常診療で特に感じますのは糖尿病の増加です。みなさん、空腹時血糖が正常だから糖尿病がないと決め付けしないで下さい。糖尿病の治療で一番重要なのは「かくれ糖尿病」を早期に発見して治療することなのです。健診の空腹時血糖値は99mg/dl以下ですが、100を超えているようでしたら要注意です。食後高血糖、いわゆる「かくれ糖尿病」が潜んでいるかもしれません。この時期に血糖値を正常化しないと動脈硬化が進展してしまい完成してしまう事が多いのです。高血圧治療は当たり前のことになりました。糖尿病は心筋梗塞や脳卒中など動脈硬化を引き起こすのみならず、一部のがん、認知症の発症にも悪影響を及ぼす事が分かっています。空腹時血糖値が100を超えているようでしたら是非医療機関を受診し食後の血糖値や糖負荷試験を受けて下さい。那須塩原市の健康課には健診で100を超えている方に医療機関受診を勧めるように要望いたし、早速始まる予定です。とにかく、健診で異常値がありましたら

基本情報



西那須野内科循環器科クリニック

- 院長
鈴木 明裕 (すずき あきひろ)
- 住所
那須塩原市永田町7-13
- 電話
0287-36-1100
- 診療科目
内科 循環器内科 呼吸器内科
- 休診日
祝祭日・日曜日・土曜日午後・木曜日

「かかりつけ医」など医療機関を受診することをお勧めいたします。
十分な病気の理解が重要ですが、できませんと、患者さんはなぜ薬を飲むかわからず、途中で治療を止めてしまい治療が継続できません。私は初診の患者さんにはできるだけ病状の説明に時間をさいて取り組んでおりますが、治療に疑問がありましたら主治医に訪ねて下さい。

がん診療対策に対する取り組み

当院は平成26年8月6日に厚生労働省より「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受け、栃木県北唯一の緩和ケア病棟20床を有し、様々なスタッフががんについて積極的に取り組んでいます。今回は当院の「がん診療対策に対する取り組み」について特集させていただきます。

副院長兼第一産婦人科部長 **がん診療対策室室長 白石 悟**



当院は平成26年8月6日に厚生労働省より「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けました。これは、全国どこの地域でも質の高いがん医療が提供できるように、全国各地でがん医療の中心を担う病院を、各都道府県が審査・推薦し、厚生労働省での審議会を経て指定するものです。

現在、栃木県内では、当院を含む7病院が指定されています。

その要件は以下の通りです。

(手術、放射線療法および化学療法を効果的に組み合わせた集学的治療)

- ① 相談支援センターの設置
- ② 緩和ケアの提供
- ③ 研修および地域連携フリニカルパスの整備
- ④ 院内がん登録の実施、地域がん登録

- ⑤ セカンドオピニオンの提示
- ⑥ キャンサーボードの設置および定期的な開催

がん診療対策室では、がん診療委員会を開催し、院内でのがん治療に関する基本方針決定・指導を各部門の委員と協議の上行っています。

① **がん相談支援センター**では、がん患者さんが気軽に必要な情報を取り、相談等ができるように、相談窓口を設置しています。毎月第1土曜日にはがんのつどいと、ピアサポート那須がん患者の会が行われております。さらに、本年度からがん患者の就労支援事業が栃木県で初めて行われることになりました。② **緩和ケア支援部門**では、2年前の当院新築に際して20床の緩和病棟を設置し、緩和ケアをいつでも提供できるチームでの体制を整えました。③ **研修(がん診療)部門**は、医療従事者を対象としたがん治療のセミナーや講演会を行っております。ま

た、地域住民の方々向けのがんの市民公開講座も開催し、質問や相談コーナーも設置しております。④ **院内がん登録部門**は、院内でのがん症例の登録を行うとともに、より良い医療を提供するために、当院と栃木県内さらに全国の病院のデータと比較し治療について検討しております。さらに、⑥ **キャンサーボード**では各臓器別のがんについて各診療科医師ならびに多職種スタッフに参加し行う検討会を定期的に開催しております。

当院では、患者さんが自分の病状を正しく理解し、治療方針を主体的に選択していただくために、基本的にがん告知をするよう検討しております。そのため、その後の患者さんやご家族の方々への支援が重要であると考えております。今年度、当院の看護師から栃木県北では初めてのがん看護専門看護師が誕生しました。今後さらに相談支援体制を強化し、地域がん診療連携拠点病院として、地域におけるがん医療の充実に、より一層邁進して参りたいと考えております。



8 西病棟医長

平成25年4月より8階西病棟に緩和ケア病棟を開設いたしました。那須連山を望む非常に景色と環境の良い病棟でございます。20床すべて個室であり患者さんがご家族とゆったりとお過ごしいただけるような環境を整えております。当病棟では、緩和医療に携わる経験を積んだ医師、看護師、薬剤師、臨床心理士

第5外科部長 河島 俊文

など多職種により構成された緩和ケアチームを中心に活動を行っており、がん患者さんに対して、疼痛をはじめとする身体的症状及び精神的な苦痛の緩和を提供することに努めています。また、担当医、麻酔科、ペイン外来、精神科の非常勤医師と密に連携を図り、質の高い緩和医療を提供できるよう尽力しています。さらに、近隣の医療機関・訪問看護ステーションと連絡を取り、患者さんご家族のニーズにこたえられる体制をとっております。

8 西 緩和ケア病棟紹介

緩和ケア病棟は、がんを治すための治療ではなく、「苦しい」「痛い」「気が晴れない」などの症状を緩和するための病棟です。

緩和ケア病棟に入院される場合は、がんと診断されており、患者さんが病名や今の病状についてご理解されていることが望ましいです。

苦痛の緩和のための対症療法や痛みをとるための放射線療法は積極的に行っています。

入院できるベッドの数は20床なので、静か看護師もゆつくり関わることが出来ます。

すべて個室のため、ご家族との大切な時間を有意義に過ごすことができます。

季節を感じられるようにイベントも盛りだくさんです。ボランティアの方による飾り付けや、各部屋の風景写真や絵画なども心を和ませてくれることと思います。



夏祭り。おめんやヨーヨー・かき氷で楽しみました。



ある日、キティちゃんが病棟に来てくれました。各部屋をまわり握手をしてくれました。患者さんも看護師も笑顔になりました。また来て下さいね。



七夕。患者さんもご家族も先生も…沢山の願い事を書きました。



ボランティアの方の作品です。他にも沢山の飾り付けをいつもありがとうございます。



クリスマス会。ボランティアの方により、オカリナ演奏やキャロリングを披露していただきました。先生方はサンタさんになって患者さんの部屋をまわってくれました。

「がん患者さんとご家族が望む生き方を大切にしたい」
これが私の視点です。

がん相談支援センター がん看護専門看護師 水野 恵美

がん看護専門看護師とは

がん看護専門看護師は、がんのCNStとも略され、CNStとはCertified Nurse Specialistの頭文字になります。大学院の専門看護師課程を修了し、がんの分野において専門看護師認定審査に合格した者といいます。その専門的知識を活用して、がんの医療に関すること、例えば説明に対する同意に関する事(インフォームドコンセント)や、治療について、症状の緩和、療養環境の調整など、がん患者さんとご家族が抱える不安や疑問に対して、共に考え支援していく役割を担います。現在のがん看護専門看護師の総数は514名であり、栃木県内には6名おります。

私の役割について

私の役割には、がん相談支援センターに所属し、がんに関する相談支援や情報の提供を行うことその他に、患者さんご

方にあった看護を提供することを心掛けております。がん相談支援センターの利用をご希望の方は、病院の受付や担当

の看護師などに声をかけ下さい。あなたは一人ではありません。どうぞご相談下さい。

患者さん一人一人に合った薬物療法の提供を

サテライトファーマシー

がん薬物療法認定薬剤師 村上 賢志

サテライトファーマシーでは薬剤師が常駐しており、抗がん薬を安全に取り扱うために適切な管理をし、適切な環境のもとで無菌調製し患者さんに合った抗がん薬を提供しています。レジメン管理(がん腫、ステージに応じた標準治療、投与スケジュールなど)や安全管理(投与計画のチェック、薬歴管理、抗がん剤

の調製・監査など)を行い、また抗がん薬は「もろ刃の剣」であるため、使用方法や取り扱いには十分に注意し管理しております。さらに、支持療法(副作用の予防・治療)の薬剤選択への対応を行うことで、患者さんの副作用を少しでも軽減できるように対応しております。

「治療を受けると決められた思いを支えたい」
私たちが大切にしていることです。

化学療法センター

がん化学療法看護認定看護師 郡司 洋美・福島 慶子

化学療法センターでは、他5名のスタッフも含め医師、薬剤師、多職種とも協働し、患者さんの治療のパートナーとして治療のお手伝いをしています。がんは、2人に1人はかかると言われ

ている病気です。がん化学療法では、治療と共に、治療に伴う苦痛の緩和をすすめるための対策が考えられています。がん治療のひとつに「がん化学療法(抗がん剤)」があります。がん化学療法は一九九

〇年代に多くの抗がん剤が登場し、新しい治療法も組まれてきています。抗がん剤治療は、悪心、嘔吐や脱毛などを伴う辛い副作用の辛い治療とイメージされる方もいらっしゃいますが、副作用を和らげる薬もございますのでご安心くだ

寄り添い、向き合い、支え合う

緩和ケア病棟 緩和ケア認定看護師 立川奈津子

「今・このときを大切にしたい ケアを目指す」

緩和ケアとは、がんと診断された方の痛みや吐き気、その他の身体からくる症状や、がんによる心の痛みが和らぐことができるように、様々な職種の方たちとチームで患者さんの診療を行い苦痛の緩和に努めることです。

緩和ケア認定看護師の役割は、患者さんが抱えている問題(苦痛)に対し、どこからその症状が起きているのかを探り、苦痛の緩和の方法を考え同僚や他の職種の方と話し合っって苦痛を緩和することです。また、少しでも患者さんやご家族の方が心地よい時間が持てるような援助ができるように日々考えてケアに携わるようにしています。

さい。また、治療を受けられる方やそのご家族が治療の内容で判らないことや副作用の対処方法や日常生活でお困りのこと、経済的なことなど解決方法を一緒に考えられるよう努めていきたいと考えております。

緩和ケアはがんと診断された時から受けることができます。また、その時その時の症状に合わせて苦痛の軽減の方法を考えています。

患者さんにとっては「その時・その時」がとても大切な時間です。その時間を共有しながら、患者さんやご家族に向き合うことを大切にしたいと思っています。

「出会いは一瞬一瞬」

緩和ケアは治療中から治療するまで、治療を受けない場合でも最期を迎える時まで受けられるケアです。患者さんお一人お一人がスタッフへたくさんのメッセージをくれます。「出会いは一瞬一瞬」なのであなたたちに会えたことが

幸せ。」という言葉を以前患者さんが私にくださった。この言葉通り、私もちも日々の出会いは宝だと思っています。病氣と闘っている患者さんのお姿や、患者さんやご家族の笑顔から私たちが

はパワーをいただいています。出会った患者さんそれぞれの歩んできた人生を大切にしながら、そして今このときを大切に、その人らしさを支えられるように日々精進したいと思っています。



緩和ケア病棟で勤務するスタッフとがん診療に携わるスタッフ

10月 第14回医療マネジメント学会栃木支部学術集会

県内各地から160名の参加/10月26日(土)

今年で14回目となる医療マネジメント学会栃木県支部学術集会が、当院を事務局として開催されました。

メインテーマは「救急医療からみる医療連携」で、マイタウンホールでの基調講演・シンポジウムその他、エントランスホールでのポスター発表がありました。

基調講演は来場者の関心を誘い、またシンポジウムでは白熱した討議が繰り広げられ、大盛況のなか無事終了いたしました。



マイタウンホールでのシンポジウムの様子

11月 栃木県国民保護共同実動訓練の参加

JR宇都宮駅 参加機関約25機関 約700名参加/11月10日(月)

テロ攻撃を想定した国民保護法(※1)に基づく栃木県初の実動訓練がJR宇都宮駅など県内7箇所で行われ、当院のDMAT隊員6名、救護要員7名のスタッフが参加いたしました。訓練は宇都宮駅構内において化学剤(サリン)が散布され多数の傷病者が発生した状況を想定したもので、テロ発生時の対応や被害者の救出の手順、自衛隊・警察・消防との連携について確認することができました。



防護服のスタッフが傷病者を手当している様子

防火呼出訓練

職員328名の参加/11月26日(水)

今年度より緊急一斉メールを使っでの呼出し訓練を実施しました。勤務から144名、院外から184名の合計328名が訓練に参加し、以前の電話連絡網よりもスムーズな情報伝達が可能になりました。



本部に集合している職員

医療機器体験会

日本赤十字社栃木県支部救急法奉仕団を対象に開催/11月30日(日)

日本赤十字社栃木県支部救急法奉仕団(※2) 11名を対象に、初めての開催となる医療機器体験会を行いました。災害時でも使用される医療機器である携帯用エコー、心電図・呼吸モニター、AED等を体験してもらい、知識を深めてもらいました。その他、医療機器メーカー協力のもと、縫合体験も行いました。受講者からは「普段体験できないことができて良かった」「病院の設備機器を知る良い機会となった」などうれしい感想をいただきました。



ジャガイモを用いての電気メス体験

12月 安心ステッキ(杖)16本の寄贈

日本赤十字社栃木県支部より/12月4日(木)

日本赤十字社栃木県支部へ50本の杖が寄贈され、県内の赤十字病院3施設へ配分されました。

当院は16本の杖をいただき寄贈式がとり行われました。杖は男性用・女性用とあり、外来やりハビリテーションで大切に使用させていただきます。

本当にありがとうございました。



左から日本赤十字社栃木県支部 深野組織振興課長、リハビリテーション科課長 池澤

キャラクターからの手紙で元気と勇気を

株式会社イクスネットより/12月22日(月)

小児科病棟の子供達へ笑顔を広げ「不安を抱え病気と闘う子供達を応援したい」とボランティア活動の申し出があり、キャラクターの手紙をいただきました。キャラクターが書かれたメッセージを子供達に届け、夢や感動を体験するサービスです。キャラクターからのメッセージで入院中の子供達が一日でも早く元気になって欲しいですね。

国民保護法(※1) 武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律。

栃木県救急奉仕団(※2) 赤十字講習会で身につけた知識や技術をより一層深め、赤十字社のボランティアとして各種訓練への参加や災害支援活動を行っている団体・団員の職業は様々です。



左からイクスネット 岡本さん、富田さん、4東病棟看護係長 長山、総務課 秋元

いけばなボランティア紹介

那須赤十字病院では一般の方が様々なボランティア活動を行っています。今回ご紹介するのは華道家元池坊教授の渡辺マリさんです。

渡辺さんは毎週月曜日に2階フリーラウンジ(上島珈琲店・マイタウンホール近くの休憩スペース)から見える位置にお花をいけてくださいます。

季節の移ろいを真っ先に感じさせてくれる作品は、患者さんやそのご家族の目を楽しませてくれます。

Q 当院でのいけばなの他に、現在どのような活動をしていますか？

A 池坊宇都宮支部にて研究会、講習会への参加、自宅にて教室を開いています

Q いけばなをする際に心掛けていることは何ですか？

A 季節・色彩など配慮して、また、病院ですので匂いの強いものはいけないようにしています

Q 病院でのいけばなボランティアのきっかけは？

A 花は心の食べ物と言った方がいます。私も花が好きで今日まで続いています。花提供者であるあわや生花店様の後押しがあり始めました。

Q 地域の方に「いけばな」について一言

A 日本の伝統文化であるいけばなは床の間に合います(立華・生花)。今日では住宅事情などで環境に合う花へと変わってまいりました。



新任医師紹介

「わたしたちが皆さんの健康をサポートします！」

新しく那須赤十字病院で働く先生を紹介いたします。



産婦人科 真壁 健

1月から勤務

整形外科 福田 慎介



耳鼻咽喉科 小島 敬史

12月から勤務



小児科 加藤 正也

11月から勤務

緩和ケア講演会

「最期まで目一杯生きる」

参加費無料



日時：平成27年2月6日(金)18:30～20:00

対象：医療従事者・一般市民 定員150名

講師：萬田 緑平 先生(緩和ケア診療所・いっぽ)

お問い合わせ・申込先：那須赤十字病院 がん診療対策推進室 ☎0287-23-1122(内線3708)

がんのつどい

平成27年2月7日(土) 10:00～11:00

場所 那須赤十字病院2階会議室1・2

リハビリテーションアドバイザー

理学療法士 吳 和英

作業療法士 荒井 明子

いきいきリハビリ教室

「第25回 地域向け勉強会」

日時 平成27年2月7日(土)10:00～11:00

場所 那須赤十字病院2階リハビリテーション室

参加費 無料

テーマ 「上手に食べるために」食事をアレンジしてみよう

編集後記

今年^{ひつじ}は未年ですが、前回の未年の時、当院はまだ大田原赤十字病院で、医療環境も大きく異なりました。十年一昔と言いますが、十二年となると隔世の感です。次の未年となると、高齢化のピークの2025年も過ぎています。予想もつかない未来が、美しく^{さち}祥多きものとなるよう、羊の毛の^{よう}に期待を膨らませたいと思います。

事務部経営企画課 漆原拓海

本誌へのご意見・ご感想をお聞かせください! プレゼント

抽選で3名様に「CroKuma救護服」「CroKumaナース」「赤十字マグカップ」をプレゼントいたします。

以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールにてご応募ください。

●応募先

郵送/ 〒324-8686 大田原市中田原1081-4
那須赤十字病院 総務課 プラタなす第8号 プレゼント係
FAX/ 0287-23-3004

宛先「総務課 プラタなす第8号 プレゼント係」

メール/nrchp@nasu.jrc.or.jp

件名「プラタなす第8号 プレゼント係」

●応募締切り 2015年2月27日(金)

※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。



今回の表紙

昨年の秋に初めての企画になった、那須赤十字病院託児所ポケットの「祖父母の会」がおじいちゃん、おばあちゃんを招待して実施されました。子ども達の笑顔はもちろん、おじいちゃん、おばあちゃんの笑顔がとても印象に残り楽しい時間を過ごせました。



那須赤十字病院

基本理念

マイタウン・マイホスピタル
～地域に根ざし、ともに歩み、心ふれあう病院に～

基本方針

1. 赤十字基本原則に則り、地域のための医療を提供します。
2. 患者さまの立場を尊重し、患者さまに信頼される病院をつくります。
3. 日々の研鑽を惜みず、医療の質の向上に努めます。
4. 保健・医療・福祉施設との連携を密にし、地域医療の発展につくします。

プラタなす 那須赤十字病院広報誌プラタなす No.8

発行日 2015年1月

発行者 那須赤十字病院 〒324-8686 大田原市中田原1081番地4

TEL 0287-23-1122 FAX 0287-23-3004

URL <http://www.nasu.jrc.or.jp> 印刷 株式会社 松井ビ・テ・オ・印刷